

- <特集レポート①> 2025年は128ジャーナルがWeb of Scienceから除外!
- <特集レポート②> ScholarOne Manuscripts™ 2025年顧客満足度調査結果
- <杏林舎サービス紹介> ジャーナル・コンサルティングサービス SeekI

緊急報告

2025年は128ジャーナルがWeb of Scienceから除外!

最も有名な学術情報データベースの一つである Web of Science。毎年多くのジャーナルが掲載される一方、クオリティを維持するために大規模な掲載誌の見直しも進んでいます。変化を続ける競争環境の“今”を見ていきましょう。

増え続けるWeb of Science掲載ジャーナル

ジャーナル・インパクトファクター（以下JIF）は、学術誌のインパクトを表す指標として広く使われています。かつてJIFはWeb of ScienceのフラグシップデータベースSCIE掲載誌にのみ付与されていましたが、2023年からはESCIなどその他データベース掲載誌にも付与されるようになりました。これにより多くのジャーナルがJIFの恩恵を受けられるようになったことは記憶に新しいところです。

元々は新興あるいはニッチ分野のジャーナルの収集を目的として立ち上げられたESCIですが、現在はWeb of Scienceに新規掲載されたジャーナルが最初に掲載される、いわば登竜門のようなデータベースとして機能しています。

そんなESCIへの新規掲載ジャーナル数を見てみると、2023年は387ジャーナル、2024年は591ジャーナル、そして2025年は481ジャーナルと例年多くのジャーナルが新たに掲載されていることがわかりました。まだ未掲載のジャーナルにとって、積極的に掲載を続けている今がチャンスと言えるでしょう。

Web of Science掲載ジャーナルの見直し

Web of Scienceのジャーナル掲載誌が年々増加する一方で、以前SeekIコラム記事『2024年Web of Scienceから124誌が除外! 対象となったジャーナルの特徴とは?』でも取り上げたとおり、Clarivate社はWeb of Scienceのクオリティを維持するために掲載ジャーナルの見直しも同時に進めています。この見直しは毎月行われ、2023年は213ジャーナル、2024年は132ジャーナル、2025年は128ジャーナルが見直し対象となり、JIFを失う結果となりました。

新規掲載と除外ジャーナルの数

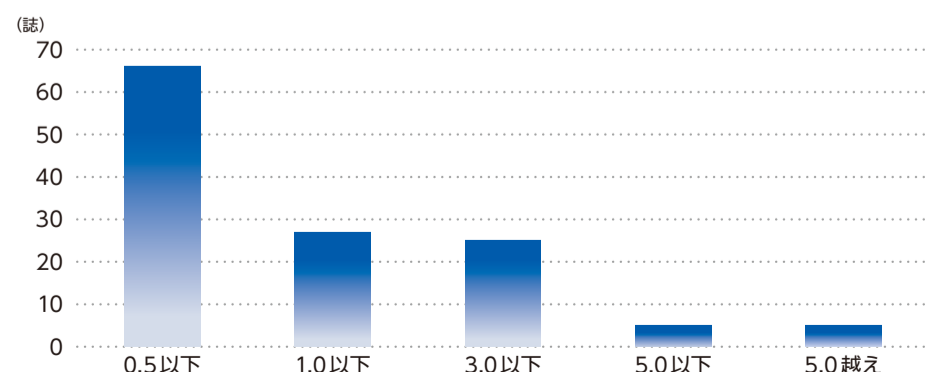
	2023年	2024年	2025年
新規掲載	387	591	481
掲載見直し	213	132	128
増減	174	459	353

低JIF ≠ 除外

クオリティ維持のための掲載誌見直しときくと、JIFの低さがその理由になると思われるがちですが、実はそれだけで判断することはできません。2025年には最高で8.0とかなり高いJIFを持つジャーナルも見直し対象に含まれており、128誌中35誌が1.0を超えていました。

またSCIEなどのフラグシップデータベースの掲載誌も除外対象となっています。高いJIFを持っている、SCIEに掲載されているからといって安心は禁物です。

2025年除外ジャーナルのJIF分布



Web of Science からの除外理由

Clarivate社では掲載見直し理由を大きく3つのカテゴリーに分けています。

- ① Editorial De-listing (編集、出版方針による除外)
- ② Production De-listing (出版上の問題による除外)
- ③ Cease (廃刊、休刊などによる除外)

さらに深掘りするとWeb of Scienceからのジャーナル除外の判断は、編集上の質と研究の健全性確保の両面から行われていることがわかります。

ジャーナル除外の判断

除外理由	2023年	2024年	2025年
編集、出版方針による除外	86	56	55
出版上の問題による除外	78	43	35
廃刊、休刊などによる除外	49	33	38

主な理由は以下の通りです。

品質基準の継続不能

掲載ジャーナルは Clarivate 社が掲げる 24 の品質基準を全て、常に満たす必要があります。この基準には透明性のある査読プロセス、編集委員の所属機関情報、倫理規定の策定、ウェブサイト記載情報の正確性などが含まれます。

引用インパクトの低下

Web of Science に掲載されているジャーナルは定期的に再評価されます。引用活動が基準を下回ると SCIE、SSCI、AHCI 掲載ジャーナルは ESCI に格下げ、または除外されます。また ESCI に掲載されているジャーナルの場合は除外されてしまいます。

過度な自己引用や引用操作

自己引用や引用操作によってインパクトファクターが歪められていると判断された場合。

査読不正やペーパーミル活動

2023年には、ある出版社の約20誌でペーパーミルや査読不正を疑われたことにより、Web of Science から除外されるという事態が発生しました。

定期的な健全性チェックと再評価

Clarivate 社は独自に開発した AI を活用し、定期的にジャーナルの健全性をチェックしています。2023年3月には500誌以上が調査対象となり、50誌以上が品質基準不達成で除外されました。

出版データの不備や生産上の問題

書誌データが不完全、または定期的な出版が維持できない場合、正確なデータ算出が困難となり除外対象になります。

編集者が除外を防ぐための取り組み

万が一JIFを失ってしまった場合、ジャーナルの評判に悪影響を及ぼす可能性があります。それを避けるためには次の取り組みが大切です。

- 厳格な査読体制の維持 (特集号や特集記事も例外ではありません)
- COPE (出版倫理委員会)※ 基準に沿った明確な倫理規定の公開
- 正確な書誌データと安定した出版スケジュールの確保
- 引用操作の回避、自己引用率のチェック
- 透明性のある編集体制と多様性を持った編集委員会の構成
- 定期的なジャーナル運営状況のチェックによる再評価への備え

※杏林舎の運営するSeekIは2025年よりCOPEの正式会員となりました。

自分たちだけでは難しい場合には、様々なツールやアウトソーシングを検討されてもよいでしょう。

結論

Web of Science からの除外は恣意的ではなく、掲載されているジャーナル運営の厳格さ、引用の健全性や出版倫理をしっかりと守り、維持するための措置といえます。そのため掲載を維持するためには、透明性・査読品質・倫理規範の徹底と維持が求められます。読者の皆さんの携わるジャーナルにおいても、継続的にジャーナルの運営状況についてチェックを行うことをおすすめします。



ScholarOne Manuscripts™

2025年顧客満足度調査結果

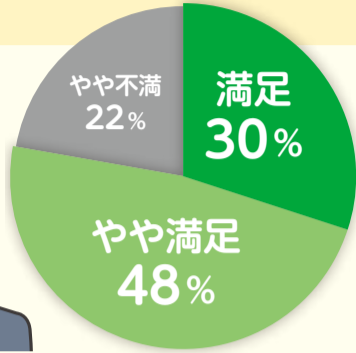
S1Mの操作・機能性や弊社サポート対応について、2025/3/21～2025/4/11にアンケートを実施しましたので、その調査結果をご紹介します。

S1Mの操作性・仕様・機能について

アンケート回答内訳

約80%が満足、約20%が不満寄りの回答結果となりました。

機能・仕様の向上へのご要望を多くいただき、設定変更により改善が可能な内容もございましたので、いくつかのケース(事例)をご紹介します。



ケース1

査読依頼をしても諾否の回答をいただけない先生がいらっしゃるの困っています。

【改善案】 auto-decline (査読依頼から一定期間を経過しても諾否回答が無い場合に自動的に辞退処理を行う) という無償のオプション機能がございますので、設定をご希望の場合はサポートセンターへご連絡ください。

ケース2

査読依頼をしてもご辞退をされる先生が多くいらっしゃるの困っています。

【改善案】 査読辞退をされる先生が多いようでしたら、査読依頼メール内の返信リンクから「辞退」を削除(辞退の場合はメールで理由を記載して返信いただくなど)することが可能ですので、設定をご希望の場合はサポートセンターへご連絡ください。

ケース3

適任の査読者が見つからない、その他の業務が多忙等、個々の理由で査読が遅延する場合があります。

【改善案】 適任の査読者が見つからないケースが多い場合につきましては、著者が投稿時に推薦査読者を登録する画面を追加することが可能ですので、設定をご希望の場合はサポートセンターへご連絡ください。

ケース4

査読期限の過ぎた査読者に、査読を急いでもらうリマインダーメールを自動送信することはできますか？

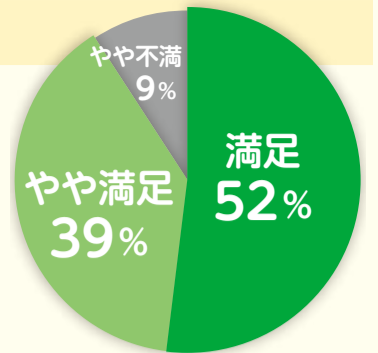
【改善案】 メールテンプレートを作成することで任意の日数のリマインダーメールを追加することができます。作成方法等でご不明な点がございました場合は、サポートセンターへご連絡ください。

杏林舎のS1サポート対応について

アンケート回答内訳

約90%が満足寄り、約10%がやや不満とのご回答をいただきました。

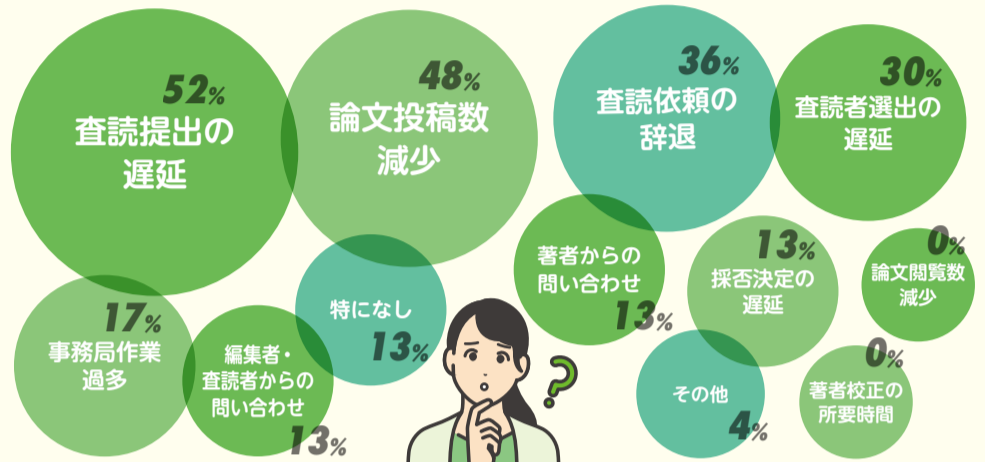
コメントについても迅速な対応への感謝の言葉が多く寄せられておりまして、皆様からいただいたお声に感謝するとともに、引き続きサポート対応の向上を目指して取り組んでいきます。



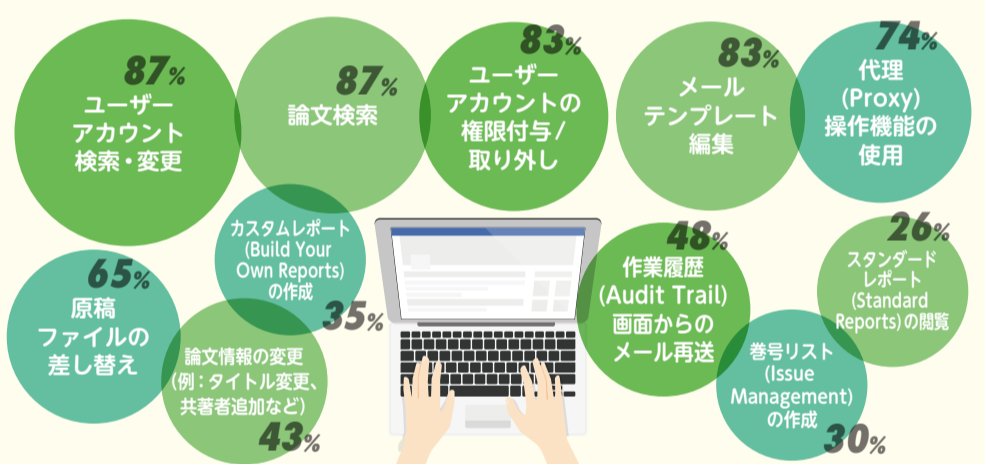
アンケートご回答者様からお寄せいただきましたコメント(一部抜粋)

- 質問、依頼に対し、的確・迅速に返答いただき、感謝です。
- 問い合わせをさせていただいた際は、いつも迅速に丁寧にご対応いただきまして大変感謝しております。
- いつも早急にご対応、ご返信いただき、ありがたく思います。
- 面倒な要望についても、迅速・丁寧に対応いただき、大変助かっております。

ジャーナル運営でのお困りごと(アンケート回答内訳)



事務局アカウントでのS1M使用機能について(アンケート回答内訳)



今年の顧客満足度調査についても、近日中に皆様へメールにてご案内させていただきます。システムの改善要望などがございましたらお気軽にアンケートへご回答ください。

編集後記

今号はWeb of Science掲載ジャーナルの見直しの現状についてご紹介しました。Web of Science掲載ジャーナルの総数は年々増えており、未掲載のジャーナルにとってチャンスである一方、見直しによる除外も同時に進められています。各ジャーナルが編集上の質と研究の健全性確保を維持し、自らの価値を示し続けることの重要性をあらためて感じました。

また、2025年のS1M顧客満足度調査では、操作性や機能面について約80%の方にご満足いただいておりますが、一部改善のご要望につきましては、貴重なご意見として今後の参考とさせていただきます。サポート対応については迅速かつ丁寧な対応とご評価をいただくことができ、安堵しております。

今後もさらなる利便性向上に努めてまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

S1M NEWS

2026年3月31日発行 第32号

発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
Tel.03-3910-4311 Fax.03-3949-0230
https://www.kyorin.co.jp/
編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎
E-mail s1-support@kyorin.co.jp

「掲載されたら安心」ではありません！ 学術データベースに掲載され続けるために

ジャーナルがPubMedやScopusといった学術データベースに掲載されることは、その投稿数に顕著な影響を与えます。たった一つのデータベースに掲載されるだけで、投稿数が1年で倍増することも珍しくありません。一方で、一度掲載されてしまえばそれでいい、という訳にはいかないのが現実です。

例えば、Clarivate社によるWeb of Science掲載ジャーナル見直しでは、毎年多くのジャーナルが除外されJIFを失っています。データベースが求める掲載基準を満たすジャーナル運営を、維持できていないことが原因です。

多くのジャーナルがデータベースへの掲載を目標としていますが、掲載後に求められる基準をクリアし続けることも非常に重要です。

Seeklでは、データベースへの新たな掲載はもちろん、掲載維持に関する相談もお受けしています。ジャーナルの現状診断から、国際動向に合わせて変化する審査基準への適応や被引用対策など、それぞれのジャーナルに合わせたコンサルティングプランを作成・実行しています。

お問い合わせ **ジャーナル・コンサルティングサービス Seekl**

03-3918-5005(直通) info@seekl.jp

JIFについてお悩みのことがあれば、まずは気軽にご相談ください▶



Seekl
ジャーナルコンサルティング